

ただのいちにち

作・樋口ミユ

前説 黒画面

あ そのままで
今忙しいなら その手をとめなくて そのままでいいから
聞いてください
なにかしながらでいいから

電車に乗りながら
なにか食べながら
掃除をしながら
書類の整理をしながら
歩きながら
なんでも

聞き流すだけでもいいから
疲れているなら目を閉じて
横にな た ていい
眠 た ていい

だけでもできるなら
最後まで聞いてもらえたらうれしい
そしたらき せ
あなたがやらなき ならないことが 分かる
き と分かるから
だから聞いてほしい

そのままで いいから

1 布団に横たわり 部屋の灯りは常夜灯

これは僕の話

だいたいぎ □ぐり言えば最悪で

運がなさすぎてなんにもうまくいかない

ここいちばんの勝負所 □て時には必ず電車が遅延する

トイレに入れば必ず紙はないし

いつもどんな時も ハイここまで の線引きの時は僕の手前で区切られる

当てて欲しくない時には必ず当てられ続けた学生時代

そのくせクジを引けば当た □た試しはない

ラ □ギ □て言葉を言 □たことがない

だ □でラ □ギ □がないから

僕のとりにくる親友 □てやつらはだいたい運がいい

まるで僕の運をひ □セ横からか □さら □でんじ □ないか □て思うほど

真摯な気持ちでマ □チングアプリを使い始めたし □□ばなに

デ □下商法ばかりの三連チ □

英語の教材は買わない一回目

浄水器もいらない二回目

そこらへんち □んと冷静だから引 □かか □てたまるかの三回目が

運を引き寄せる講座に興味はありませんか

そんなあやしげワ □下につられとりあえず一回来てみてよの笑顔に落ちてお話

会8万8千円の末広がり

それ一回 □こ □きりで済んで運がいいと思うか 戻 □てこない8万8千円を

失 □て運がない □て嘆くか それはなにもかもあなた次第

なんて言 □た街角の占い師に払 □た金額30分で5000円

ん？

ちがう

こんなことを話したか □たわけじ □ない

運がないのは生まれた時からもう決ま □てた

その話でしたか □たんだ

いつまでもいつまでも

ついてまわる だから厄介なんだ

2 電話が鳴り ぐろりと起き上が □で電気をつけた

はい

はい あ 僕ですけど はい？

ああ はい そうですね 父 です たぶん もう ずいぶん前で
子どものころで それからほとんど会 □たことが あ いや成人式にあ □
た □け？□あ えと すみません なんです □うか え あ

は

そうですか

それは

孤独死というやつでし □うか

はい

コドクシ

コド

ク く へ □ぐし □ん

すみません

あ どうも いえ 大丈夫です お気使いなく いえいえ泣いてるわけじ □
あ はい 引き取り

荷物とかですか

え

遺体

えと あの どうしたら ?
あ はい わかりました とにかく そ
署に

え

大阪 □で あの 大阪まで行 □で 僕 その 引き取る □でどうや □で
あ 葬儀屋 ああ すみません とにかく行きます はい え あの もし
もし もしも

電話の主が替わ たようだ

え
あ はい もしもし あ はい さきほど警察の方から聞きました あ
あ □ 家主 さん す すみません あ

息がつまる

家賃の滞納 二〇月

汗が出る

あ

すみません

はい すみません

督促状

は□

税金も 滞納？

あ

あの それ金額 どのくらいの

ああ はい それは市役所から改めて連絡が はい くるんですね わかり
ました はい どうも

プツリと途切れ 呆然と

葬儀

移動

家賃

滞納金

え？

払うの？

え

僕が？

3 じ□スマホを見ている

涙よりも ため息が出た
悲しみよりも 焦りがふき出した
顔が思い出せない
ようにしてるのか本当に思い出せないのか
声が思い出せない
ようにしてるのか本当に思い出せないのか
本当は覚えてるのか
思い出せないふりをしているのか
どうなのか
さえ もう わからないくらいに
焦りがそのうち
怒りに なりそう
当たり前に悲しみたいのに
悲しみたい ?
ホントに?
ほんとうの
本当は?

本当は

僕は

ひどい 言葉を ぶちまけたくなる
いやだ
それはしない
それだけはない
だからできるだけ 遠く 遠く
遠い人のままにして
そうしなき □

悲しさが生まれてこない僕のほうが

すぐく

すぐく

ひどいやつになるから

とても

とても

自分が

嫌になるから

当たり前みたいに 悲しんで

誰もがそうするみたいに泣いて

泣かなき□

それが普通なんだから

それが当たり前なんだから

泣かなき□

ひとつぶでいいから

と

涙を しばりだした

出なか □だ

出なか □だんだ

出なか □だな □

だから

代わりに自分の通帳をひらいて見た

すぐに泣けた

葬儀

滞納金

葬儀

滞納金

葬儀

払える余裕が どこに

4 部屋じ□の いろんなものに入つ当たりしながら 喪服を着る

♪

人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら

何かがほしいおいら

それがなんだかわからない
だけど何かが足りないよ
いまの自分もおかしいよ
そらにうかぶ雲は

いつかどこかへ飛んでいく
そこになにかがあるんだろうか
それは誰にもわからない

人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら
人間なんてららら ららららら

♪

5 喪服で椅子に座ると□□□の向こうに母がいる

心配しないで

母さん

もう火葬始ま□だから

正直ち□□とパニ□□□ただけど いきなりで 当たり前か 予告なんか
できないしね

うん

大丈夫 葬儀のことも

直葬□□で すぐに火葬場に行くやつ うん お葬式はなしで どうせ誰も来
ないだろうから

滞納金は 30万くらいだ□□

税金とは別に家賃滞納もあ□□で 家主さんがもうすごい怒り狂□□で 電話で
警察の人がなだめて だからパニク□□ただけど

し□□がないね 僕が 相続人だから

なに言□□てるの 母さんが払う義務ないしそれに払えるわけない 30万だ
よ 電気代上が□□でや□□でられない□□で言□□でのに いいんだ□□で
う他人なんだし 僕は どうあがいても子どもだから

子どもは どうした□□で他人じ□□ないから

生まれた瞬間からもう 決ま□□てる

ず□ぞついてまわるんだ 死んでもついてくる

僕の人生 はじま□た瞬間にもう終わ□た□みたいな

あ ごめん 笑い話のつもりで

泣かないで

母さんはなんにも悪くないから 心配ないから あのね

相続放棄すればいい□で

相続相談センタ □□でいうのも 教えてもら □だから なんとかなる うん
いろいろ 書類とか 放棄するための たぶん丸ごとライトプランみたいなやつ
3万くらいの

直葬は 全部で10万だ □たかな

うん イタい出費

でも仕方ない

いいよ ダメだよ いらないから 母さん 僕がなんとかできるから

出来る

ち □んと出来るから

大丈夫 来なくていいよ

べつに会いたいわけじ □ないでし □?

それにもう焼かれてる

連絡するの遅くな □でごめん ていうか

うん そうだよ

わざと

ひとりで出てい □ただだから 最後までひとりでいいんだよ あの人は

本人が望んだんだ

家族がいらない人だ □だから

僕らなんて いらなか □ただよ

母さん

泣かないで

母さん

泣かないでよ

ねえ

母さん？

6 心づつおやぐ

うそ

ほんとに？

まじで？

本気で

悲しんでる？

うそ

ほんとに

まじか

その涙

弔いの涙？

だ□であんなに

つらい涙 流していたのに？

それがいまは

その死を

悲しむ？

悼む

惜しむ

お悔やみ

追悼

冥福

供養

慰める

安らかに

祈り

魂を 鎮める

鎮魂

黙祷

ほんとうに？

その涙　ほんとうなんだ

母さん

わかんないよ

夫婦□で

あ

もと夫婦□で

わからない

出会□で喜んで抱き合□で笑□で

誓□で約束してゆびきり　浮かれてわざわざ

なにもかもわざわざ

子どもまで作□で

こ□ちはなんも頼んじ□いないのに

わざわざ暮らして産んで育てて生活して

わざわざすれ違□でこじれにこじれて

許せなくて文句言□で恨んで憎んでわざわざ　わざわざ別れる

ならなんで出会うの喜ぶの抱き合うの笑うの誓うの約束したんじ□いないの？

どうせ別れるならどうしてわざわざ

幸せな一瞬

永遠の一瞬

どうして作□ち□□たかな□

わざわざ幸せの一瞬

わざわざ永遠の一瞬

なんでふたりでわざわざよ□でたか□でめち□ぐち□に壊しち□□たかな□

逆に気があ□でんの？□あ□でないの？□あんなの？

わからないんだよ

ぜんぜん

7 喪服を脱ぐ

♪

僕の髪が肩までのびて
君と同じにな たら
約束どおり町の教会で
結婚しようよ□□□□□□□□□□

古いギタ をボロンと鳴らせよう
白い手 ペルが見えたら
仲間を呼んで花をもらおう
結婚しようよ□□□□□□□□□□

もうすぐ春がペンキを肩に
お花畑の中を散歩にくるよ

そしたら君は窓をあけて
エクボを見せる僕のために
僕は君をさざいにくるよ
結婚しようよ□□□□□□□□□□

♪

8 〇〇〇〇の画面の向こうには 君がいる

ごめん

結局20万くらいなんだかんだで使

いや 違う 補填してほしいとか そういうんじ なくて

また貯めればいだけだから

20万使うのなんてあ という間で

これ貯めるのにどのくらいかか たかな

いや だから違う で 気にしないで 君にそれ出して で言 てるんじ

ないからほんとに 僕が貯めたいんだ 君と一緒にいたいから

だ で や ぱりあ たほうがいいでし

結婚資金

ていうか 生活資金

少し余裕が 手元に ね

また消費税上がるだろうし

ああ 給料上が たんだ 50000円だけど

大事だよね 50000円

ごめん

本当にごめん　こんなことに使　□　□　□

こんなことだよ

こんな無駄な

もう何年も何年も会　□　てなか　□　たのに

全然関係なか　□　たのに

なんで

ず　□　と会わない　□　てことと　もうこの世にいない　□　てことと　なにがど
う違うんだろう

なんで親子は縁が切れないんだろう

最悪だ　　僕が最悪だね

君は

優しいよ

ありがとう

ごめん

あ　このごめんは　そうじ　□　なくて　その　え　□　と

あのさ

いや

うん や▯ぱり 会▯て 話そうかな▯て その

わからなくな▯てきて

ごめん 画面越しだとなんだかもしかしいよね ごめん 中途半端な言い方
してごめん その

えと だから

なんで

なんで結婚するんだろう▯て

ちがう したい したいんだけど

例えば僕と君が 2年後とか 5年後とか 10年後とか 20年後とか
定年後とかに 例えば別れたりしたら

今は すごく 本当に君といたい▯て本当に思▯ているのに 思▯てるんだ
ほんとに 結婚したい▯てそれはだからず▯と一緒にいたいからそうなるんだ
し だけど 三組に一組 あ もう二組に一組にな▯たんだ▯け いつか 僕
ら こんなに君のことが好きなのに いつかはもしかしたら 僕は君に 憎ま
れ恨まれる未来だ▯てあるかもしれない なんて思うと

僕は 君が仕事で他の誰かと話しているのを見て その相手が ああ 君が
好きそうな肩幅だなとか 君が好きそうな眉毛だなとか 君が好きそうな指先
だな▯て思うと体が熱くなる ヤキモチとかそんな可愛い言葉じ▯なくて
き▯とこれはもう支配みたいなものだ 怖いから 君が僕以外の誰かをめち▯
くち▯眞剣に見つめたりしたら僕はどうなるんだろう▯てそれが怖いからビ
ビ▯て臆病で だからき▯と君を独占したくて

あれ だめだ ヤバイな これもう時代がなんか逆光して ヤバイこれ絶対に外じ □言えないし誰にも言えないし 君にこそ言 □ち □いけなしこんなこと思 □ち □いけない でも正直言 □ていいなら これ許されるなら 本当に本当の僕が願 □てることは 出来るなら君を座敷牢に閉じ込めて 一生僕以外の誰とも話してほしくないし 誰にも君のことを見て欲しくない 僕だけが君を見ていたいし 僕だけが君に触れられるし 君の世界には僕だけしか存在させたくない

なんてこんな逮捕されち □うよ 君に失礼だし人権どうするの □てなるけどだけど言 □てるだけで現実に絶対しないけどでもこんなのが本心なんだからまじで200パ □気持ち悪いこと言 □てごめん

ごめん

最悪でごめん

最低でごめん

ヤバくてごめん

キモくてごめん

生まれつき

運が悪い □て思 □てる僕が

この僕の 唯一の

幸運が君だから

幸運が 不運に 変わるのが 結婚だ □たら どうしよう □て

父親が

火葬されているあいだにいろいろ思い出して

家を出て 僕と母さんをおいて 理由は よく分からない 母親がず □と泣いてた 家のリビングに写真があ □で いつまでも 茶色くな □でもいつまでも 母さんの腰に手を回してる父親がいて 僕はまだ小さくて 記憶にあるのは ただただ仲が良いふたりだ □た 手を繋いで歩く父さんと母さんの後を僕はひとりで歩いている そのくらい ただただ仲が良か □た記憶 僕はね そんな父親の子どもなんだなと思うと

自分が よくわからなくな □てくる

僕は

父親のように何かが変わ □たりするんだろうか

ごめん

いろいろ 怖いよね ごめん こんなこと 話したいわけじ □な
か □たのに

でもこれが全部僕だ ごめん なんにも なんにも取り繕えない ごめん

明日？

ああ

明日は

アパ □下に 遺品を整理しに また大阪に行かなき □

仕事休んで また休んで こんなことで だけど僕しかいないから 僕がやらなき □ 隣の部屋の人にも迷惑かかるし 片付けて いろいろ やらなき □ また 仕事休んで 休んだら日給なくなるのに

え？

うん でも

大丈夫 ひとりで大丈夫 少し 考えたいから ひとりで行くよ

ありがとう

だけど君も

君も考えてみて

僕はき □と だめだ こんな人間は き □と

9 電気を消して 布団にくるま^た

くぐも た声で聞こえる
か弱い歌声

♪
人間なんて

らららら
らららら

泣いているのか
笑 ているのか

♪
人間なんて

らららら
らららら

泣いているのか
笑 ているのか

♪
人間なんて

らららら
らららら

人間なんて
らららら

人間なんて
らららら

10 父の部屋

電気がつくと 天井が見える

なんにもない
から□ぼの部屋
キ□チンに汚れた小さな鍋
コンビニの袋をゴミ箱がわりに
血のついたテ□□□
咳でもしたんだろうか
洗濯物が部屋の角にかたま□てる

覗き込む僕が見える

床に散らばる

本

雑誌

くだらない

本

雑誌

よごれもの

空き缶 缶ビ □兎缶ビ □兎

タバコ

いやな臭いがする

男の

中年の

もう初老か

一人暮らしの

いやな臭いだ

手を伸ばす

これ

床になにかがあるのだろう
拾い上げる

日記

考える

そして 開いてみる

少し文字を追いかけて

閉じる

見てはいけない

乱暴に床に捨てる

ように

放り投げる

少し考えて

それを

日記を

再び拾い上げて

開いた

日記だ

父親の 日記

11 日記

咳止まらず

ひとつ咳する毎に

あの日のこと

あの時のこと

たくさん

たくさん体から出てい□てしまう気がする

咳をしたくない

咳止まらず

公衆電話の上に10円玉を積み上げて電話した始まり

若くて

お前も

俺も

咳をしたくない

待ち合わせは

いつも一時間は必ず遅刻してきた

だからもう諦め いつもポケ□卜に小説をねじ込んだ

1冊読み終わ□た時もある□た

なのにこ□ちがただの1度だけ5分遅れた時

駅の伝言板に 帰る！ とだけ書いてあり

もういなか□た

呆れ笑□た

勝手に

それさえも好きだ□た

咳をしたくない

派手な結婚式とか
なんであんなことしたのか
時代だ □ ていえば簡単で
でも いうほど

悪くなか □ たかもなと振り返る

咳をしたくない

俺なんかが家を買えたのも時代だし

咳をしたくない

よく働いた

咳をしたくない

大学の積み立てとか

保険とロ □ ンとか

よく働いた

塾とか

当たり前に行かせなき □ いけなか □ たし

だからよく働いた

本当はもうひとり 欲しか □ たねなんて言いながら

悪くなか □ た

悪くなか □ たはずだ

咳を咳をしたくないのに

咳止まらず

なになが うまく いかなか □たんだろう

どこで なにを まちが □たんだろう

ふりかえ □でも

ふりかえ □でも

おかしい

どこでつまづいたのか

なになが いけなか □たのか

ふりかえ □でも ふりかえ □でも

なにもうまく思い出せない

なによりも大事だ □たはずなのに

36歳の自分にいくら聞いても返 □てくる言葉は無責任な

わからない

そればかり

バカが後悔ばかりしている

午前2時18分

家のリビング寒く

襖から少しのぞくと ふたりの寝息 聞こえる

少し前までは 微笑んで眺めていた

これが 俺が欲しか □たものだと 眺めていた

幸せの寝息

明日も仕事

なによりで

隣の家も その隣の家もき □と似たりよ □たりの幸せの寝息で

だから悪くないじ □ないか

それなのに

なになが

そうさせたのか

息子が二十歳にな □たら一緒に酒を飲むんだ □て

誰だ □て願うことを自分だ □て人並みに

それよりもそろそろ始まる思春期をどう乗り越えるか とか

もし彼女を家に連れてきたらどうするか とか

あの頃

公衆電話に10円玉を積み上げていたあの頃

ず □と話し語り続けていた未来そのものが

いま 目の前に もうすぐそこに在るのに

想像した未来

現実に叶えてる

だから働いて

働いて

働いて

働いて

目の前のことを必死に

働いて

そのうちき □とこのチビもい □ち □まえにな □て

だから働いて □て結婚式をするだろう

それは花嫁と母親のためのものだから

働いて

でもお前もう大人だろうから自分たちの好きなように勝手にやれ

なんて言 □たりするかもしれないけど

なにか泣きついてきた時には支えられるくらいにはな □ておいてやらなき □

だから働いて

そしてまた働いて

そしていつか俺が孫なんか抱く

それで

それで？

それだけか

何かがほしいおいら

それがなんだかわからない

だけど何か足りないよ

いまの自分もおかしいよ

さらにうかぶ雲は

いつかどこかへ飛んでいく

そこになにかがあるんだろうか

それは誰にもわからない

なにか

そうさせたのか

わからなくて

ただ 喉が

乾いていただけなのかもしれない

働いて

それが積み上が □

そんな時代で

誰でもそうだ □たし

それでよか □たはずが

なにかが途切れた

ふつりと切れた

お前はなんにも悪くない

お前は出会 □た時も 結婚した時も 母親にな □てからだ □て

いつだ □ていつだ □て腹くく □たお前だ □たし最高だ □た

なにがほしいか ち □んとわか □ていたし

足りないものなんてなくても嘆かなか □た

俺だけが なんだかわからなくて なにかが足りなくて おかしくて

どこに行□た□で

なにをした□で

自分がなにをほしいか分か□ていないから

いつもなにかが足りなか□た

あんなに欲しいと思□たお前と息子と仕事と家と

手の中にあ□たのに

あると思□たとたんに

どうして これじ□ない なんて 思□てしま□たんだろう

も □と他になにかある なんて 思□てしま□たんだろう

乾いていたんだ

成人式に思い立□て祝儀を渡そうとしたら

あいつ

俺よりも背が高か□た

頑として 俺から金を受け取らなか□た

いまは

いまはどうしているだろうか

成人式から10年た□て

どうしているだろうか

結婚式があ□ても呼ばれないだろう

意味がわからない父親だ

も □とわかりやすいダメな父親ならよか□たのに

借金作□た

女を作□た

女房を殴□た

酒ばかり飲んだ

それなら罵られても許してくれと土下座できたかもしれない

36歳の自分にいくら聞いても返□てくる言葉は無責任な

わからない

大事なものをかえりみず

大切なものばかりを置き去りにし

自分でもなにを後悔していいかも分からず
結局なにも残らなか □た
速くて

あの時代はとても速くて
毎日も仕事も生活も

飛んでいくように過ぎてい □た

俺は なにがしたか □たのか

俺は なんだ □たのか

俺は 意味があるのか

俺は なんで生きてるのか

咳をしたくない

咳 止まらず

消えていく

咳をしたくない

咳止まらず

流れていく

咳を 咳をしたくないのに止まらず

あの日とか止まらず

あの時とか止まらず

嗚呼

苦しい

嗚呼
だけど

この瞬間にだけ や □と 本当が 分かる

嗚呼

苦しい

苦しい

苦しい

嗚呼

いま あの寝息が聞きたい

襖からこぼれ聞こえる幸せの寝息

添い寝していたはずが眠り込んでしま □た寝息

昼間汗だけで遊び回 □て疲れた寝息

ふたりの寝息

それが本当に欲しいもの

当たり前すぎて

苦しい

見過ごして

苦しい

苦しい苦しい苦しい

だけど苦しい今だから分かる

いま お前たちふたりの寝息が聞きたい

嗚呼 苦しい

いまなら分かる

嗚呼 苦しい

嗚呼 苦しいから分かる

分かるのに

嗚呼 いま ひとり

咳止まらず

苦し

1
2

途中で途切れた文字

日記じ □な か □た

長い長い長い

遺書だ □た

13 日記を閉じて

♪

おやじが全てだなんて言いませんよ

僕一人でや た事だ て沢山ありましたよ

一つだけ言 てみたいのは

おやじが人を疑うことを教えてくれたこと

おやじは悲しいくらいに強い人でしたよ

おやじが全てだなんて言いませんよ

僕一人でや たことだ て沢山ありましたよ

一つだけ言 てみたいのは

おやじが人を裏切ることを教えてくれたこと

おやじは泣きたいくらいにひどい人でしたよ

おやじが全てだなんて言いませんよ

僕一人でや たことだ て沢山ありましたよ

一つだけ言 てみたいのは

おやじが人を愛することを教えてくれたこと

おやじはみじめなくらいに一人ぼ ちでしたよ

おやじが全てだなんて言いませんよ

僕一人でや たことだ て沢山ありましたよ

一つだけ言 てみたいのは

おやじが生けると云うことを教えてくれたこと

おやじはやるせない位に精一杯でしたよ

おやじが全てだなんて言いませんよ

誰だ て一人でできること位ありますよね

一つだけ言 てみたいのは

おやじがいつもの口ぐせ通りに生きぬいてみせたこと

おやじは誰にも見られずに死んでいきましたよ

おやじが全てだなんて言いませんよ

だけどおやじもや ぱり人間でしたよ

死んでや と僕の胸を熱くさせましたよ

死んでや と僕の胸を熱くさせてくれましたよ

♪

14 おわりに

もしもし

あのみ

へんなこと言うよ

もうどうせヤバイ □でバレてるから へんなこと言う □で宣言してから本当
にへんなこと言うよ

あのみ

僕 毎晩 死ぬよ

明日があるなんて思わない

ないかもしれない明日や未来を心配しない

毎晩毎晩 忘れずに死ぬ

今日を終わりにする

難しいだろうけど

僕には今日しかない □で 思 □でみる

た □だのいちにちしかない

ただのこの日 それだけ

本当に本気で

それだけに命かけるくらいに

だ□でさ

そしたら き□と 朝 目が醒めたことに感動する 目が醒めただけで勝手に喜べる それでその次の瞬間に君の姿が見えたら もうそれだけでいい□で思えると思う 君がそこにいてくれるだけで たぶんき□と泣けてくる

それだけに命かけれたら ていうか それだけにしか命かけち □いけないよ うな気がする

今日 1日を た□た1日だけを生きてみる

朝 最後の顔を洗 □で 最後の歯磨き 最後の朝食を食べて 最後の仕事に出かけて 最後のランチを食べて 最後の残業をして 最後の夕食を食べる 最後の湯船に浸か □で 最後のベ □下に潜り込んで 君に最後のキスをして

僕は 君を当たり前にしない

自分のことも当たり前にしない

この瞬間を当たり前にしない

それができれば案外人生楽勝かもしれない

でもき □とたぶん

出来ないんだろうけど

誰もね

出来てり □き □とこんな世界じ □ないから

だから理想だよ

1年に1回思い出せるか思い出せないかくらいの 理想

でも1年に1回くらい思い出せばいいか

頭のすみ □こ □こころへんに 僕はこの理想を置いておく

あのさ

運が よくない □で いつも言 □でたけど あれは もしかしたら 反対で

僕は 生まれたときから運がいいほうかもしれない

見ろ □で だから俺を見ろ □で お前は俺を選ぶな □で 言われたよ

うな気がした

あれは もうひとつの僕の未来だ

全部

本当にもう全部言 □た □これでフラれても ああもう当然だな □で思うか
ら

聞きたい

君は

いま 君が

なにを考えているのか

どんな言葉でも

これが最後だと思^うて

聞きたい

じと 耳を澄ませた瞬間

暗闇

君の返事は暗闇の向こう
と 同時に

♪人間なんて ららら ららららら

エンディングが聴こえてくる

おしまい

作詞・作曲 吉田拓郎
人間なんて
結婚しようよ
おやじの唄